

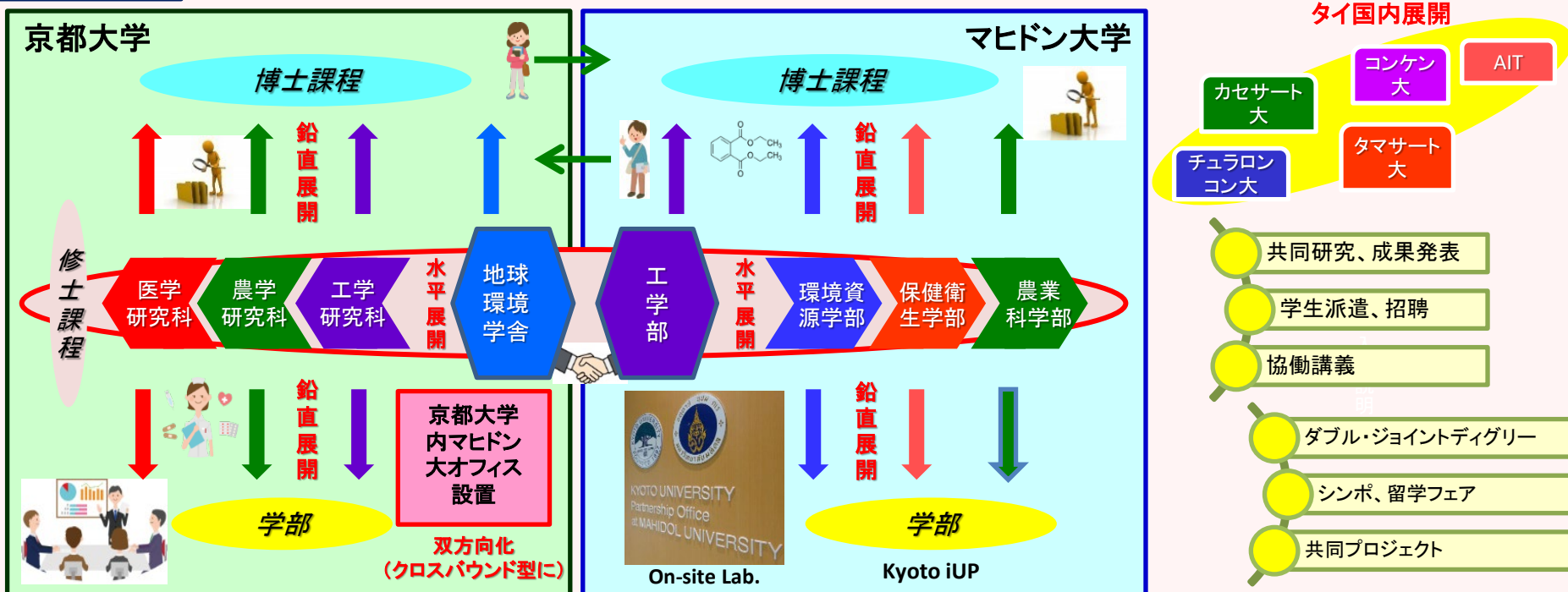
基本情報

- ◆ 認定年度: 2018(平成30)年
- ◆ 設置時期: 2019(平成31)年3月
- ◆ 実施部局: 地球環境学堂、共同実施部局: 工学研究科・農学研究科・医学研究科(当初は地球環境学堂単独実施であったが、2020年度から共同実施)
- ◆ 相手方機関: マヒドン大学(タイ)
- ◆ 設置タイプ: アウトバウンド型
- ◆ 設置目的: 日タイの環境問題の解決を目指すとともに、次世代を担う研究者・技術者・高度実務者を養成する。
- ◆ 設置場所: マヒドン大学(タイ・バンコク)
- ◆ 活動内容: 環境学について共同で教育研究活動を行う。優秀な留学生の獲得や国際共同プログラムへの発展が期待できる。

活動による大学全体への波及効果

- 現地企業も含めた国際共同研究進展
 - 優秀な留学生獲得
 - 現地学生への教育・研修の提供
 - 国際共同学位(JD・DD)プログラム発展
 - 文理融合の促進
 - クロスバウンド型への発展
- 【2018～25年度主要活動実績】**
- 毎年度オンサイトラボワークショップ(計9回)を開催。京大国際シンポ(2020/11/30-12/1 Online)を主催。
 - 2025年度は研究活動の拡大のために上記とは別に現地にてミニワークショップを開催した。
 - 地球環境学舎は2016年度、医学研究科社会健康医学系専攻は2019年度、農学研究科は2022年度ダブルディグリー(DD)を締結。2026年3月末累計で、地球環境学舎では京大生1名、マヒドン大学生14名が、農学研究科では京大生1名、医学研究科ではマヒドン大学生2名が参加あるいは参加予定。
 - 2018～19年度、マヒドン大学から17組52名、京大から15組57名が各々訪問。2020-22年度は新型コロナにより交流が大きく制限され、マヒドン大学から7組9名、京大から1組1名のみ。23年度は、京大からのべ9組30名、マヒドン大より6組19名、24年度は京大からのべ4組16名、マヒドン大より2組17名、25年度は京大からのべ6組42名、マヒドン大より5組25名。
 - 協働講義、共同研究、共著研究発表、インターンシップ等を実施。

活動概要



2025年度の主な活動実績

①シンポジウム・ワークショップ

- 第9回オンサイトラボラトリーワークショップ(2026/2/20-21): マヒドン大サラヤキャンパスとオンライン併用: 京大とマヒドン大を中心に研究者・学生ら140名(現地参加69名、オンライン71名)が参加。全体セッション(21日)では河野泰之京大副学長、西前出地球環境学堂副学長、Pattaraporn Posoknistakul マヒドン大学工学部副学部長の挨拶があり、その後、各分科会からの報告と総合討論の総括セッションが実施され、今後の研究・教育活動の展開について議論が交わされた。最後はPattaraporn Posoknistakul 副学部長、田中千尋地球環境学堂長による閉会の辞をもって終了した。なお、分科会は20または21日に、「環境工学」と「化学工学」はサラヤキャンパスにて、「農業・生態系」と「公衆衛生」はそれぞれカンチャナブリキャンパス、パヤタイキャンパスで行った。
- 例年のワークショップとは別に2025年9月15,16日に、新たな共同研究の創出(主として省エネ・省管理な分散型技術による郊外地域の持続可能な水・廃棄物管理システムに関するもの)を主な目的としたミニワークショップを開催した。総参加人数は約60名で、日本側の現地参加者が22名と定例のワークショップより多かったことが特徴。移民に関する課題等、各分科会の境界を超えた共同プロジェクトの立案について、集中的に議論を行った。この結果、複数の研究申請に繋がった。

②学生の交流・学位プログラムを実施

- 地球環境学堂(2016年11月マヒドン大学(MU)工学研究科)、医学研究科社会健康医学系専攻(2019年2月MU公衆衛生学研究科)に続き、農学研究科で2022年7月にMUカンチャナブリキャンパスとダブルディグリー(DD)を修士課程(MC)で締結した。工学研究科(MU工学研究科)、農学研究科(MU理学部)でも締結に向けた準備を進めている。さらに、2024年3月に地球環境学舎とMU公衆衛生学部の間で部局間学生交流協定を締結。
- MU工・土木環境工学専攻修士2022年8月入学のDD生2名が、2025年3月に京都大学を修了、2025年夏にMUを修了。
- MU工・土木環境工学専攻修士2023年8月入学のDD生2名が来日し、2024年4月京大地球環境学舎MCに入学。2025年3月末に帰国、2026年度修了予定。
- MU工・土木環境工学専攻修士2024年8月入学の学生2名が来日し、2025年4月京大地球環境学舎MCに入学。2026年3月末に帰国。
- MU工・土木環境工学専攻修士2025年8月入学の学生1名を2026年4月京大地球環境学舎MC入学生として選抜。1年間滞在予定。
- 農学研究科の修士課程学生1名を現在MU農学部(2025年1月13日～)に派遣。
- 化学工学専攻を中心としたマヒドン大学、チュラロンコン大学、タイ国立ナノテクノロジー研究センターとの共同研究が2025年度のJSTのNEXUS(若手人材交流プログラム)に採択された(交流支援期間は1年間)。

③共同研究成果を国際共著として発表

- 両大学の共同研究の成果を、査読論文で2編、国際共著として発表。